（公財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報

ひろしまの遺跡

第110号

芸予諸島の狭い海道を望む海城跡を調査

（大崎上島町　葛城跡）

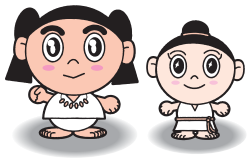
海からみた葛城跡

葛城跡から小大下瀬戸を望む

ザクザクと大量の皿が出土!!

豊田郡大崎上島町沖浦に所在する葛城跡を県道改良工事に伴って、6月24日から7月31日まで発掘調査しました。

城跡は海に突き出た尾根の先端につくられた東西約60m、南北約85mの海城です。標高26mの頂上部の平坦面からは大量の角礫や100点にもおよぶ土師質土器の皿を廃棄した大きな穴などが見つかりました。出土遺物から15世紀から16世紀ごろの城跡と推定されます。（唐口勉三）


ひろちゃん　やよいちゃん

発掘調査速報

福原3号遺跡（東広島市西条町）

調査期間 平成25年4月15日～7月5日

福原３号遺跡は，西条盆地の北部，龍王山（標高575m）の南西麓に位置しています。

遺跡の調査区西側は低丘陵尾根の平坦面，調査区東側は浅谷に向かって下る緩やかな斜面です。主に西側の平坦面から，掘立柱建物跡１棟，土坑９基，溝状遺構４条，性格不明の遺構２基，柱穴群が見つかりました。これらは，主に中世の遺構ですが，古墳時代の遺構や近世の遺構も含まれています。

掘立柱建物跡は１間×１間で，梁行1.7m，桁行3.4mです。３つの柱穴の埋土から，土師質土器片が出土しました。

土坑は小規模なものが多く，土師質土器片が出土しましたが，何れも性格は不明です。

中世や近世の溝状遺構はどれも，水を流したり水を蓄えたりした痕跡がなく，土地の区画として掘られたものと思われます。古墳時代の溝状遺構は，調査区の東側にあり，土師器片や須恵器片のほか，弥生土器片や加工痕のある木片も出土しました。

また，遺物包含層からは，縄文時代から近世の土器片の他，土師器，土師質土器，須恵器，陶磁器，縄文時代や弥生時代の石鏃，古墳時代と考えられる加工痕のある木片などが出土し，この地で長く続く人々の営みを感じることができます。また，畿内で製作された瓦器椀片も出土しており，この地と畿内との関係も窺えます。（新井真吾）

調査区全景

中世の溝状遺構と柱穴群

古墳時代の溝状遺構

福原２号遺跡は，調査が終了した福原３号遺跡に隣接し，両遺跡の間はかつて浅い谷筋になっていました。中世から近世の集落跡と予想されるこの遺跡でも，現在調査を進めています。これまでに中世の柱穴群，近世の溝状遺構・柱穴群・埋甕・埋桶・石積遺構などのほか，古墳時代の総柱建物跡（３間×３間）も見つかっています。

福原2号遺跡の調査区全景

② 御領（ごりょう）遺跡（第6次）（福山市神辺町）

調査期間 平成25年4月8日～7月19日

御領遺跡は南北1.4km，東西1.6kmに広がる縄文時代後期～中世の集落遺跡です。遺跡の北端には備後国分寺が所在し，古代～近世には山陽道が位置し，現在も国道と県道が交差する交通の要衝となっています。

発掘調査は国道313号道路改良事業に伴い平成20年度から実施しており，今回の調査は第６次調査となります。

調査の結果，環濠状の溝状遺構１条及び多数の瓦粘土採掘坑を検出しました。

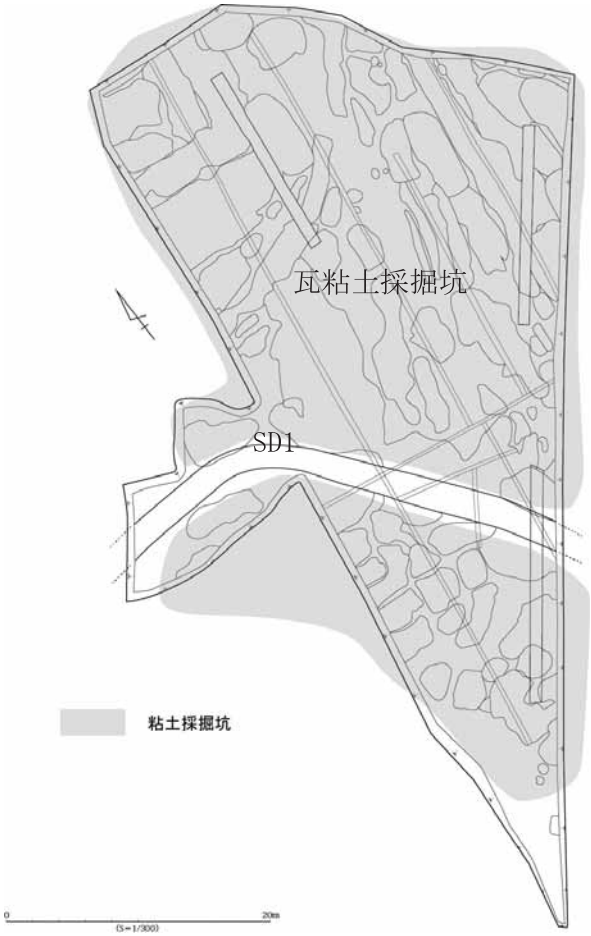
溝状遺構（SD １）は調査区の中央部やや南側に位置しており，規模は東西方向に長さ約35ｍ，幅約２ｍ，深さ0.３～0.４ｍで，遺構はかなり削平されています。溝状遺構は調査区の西側で緩く屈曲しています。

溝状遺構の埋土中から弥生土器・土師器を主として，石器類や土製品が出土しました。使用時期は出土遺物から概ね弥生時代中期後半から後期前半頃と思われます。

瓦粘土採掘坑は調査区内のほぼ全域で確認しました。その形状は方形・長方形・楕円形・溝状・不整形とバリエーションがあり，近・現代のものです。

御領遺跡の所在する神辺平野は，水稲耕作に適した肥沃な土地であると同時に洪水による危険の多い地域でもあります。弥生時代から古墳時代に本遺跡に住んだ人々はこのような沖積地としての特徴を利用しつつ，河川を制御していたと推定されます。

今回調査した地点は，遺跡の東側にも遺跡の広がりを考える上で貴重な成果を得たといえます。（辻　満久）



御領遺跡（第6次）遺構配置図

溝状遺構（SD1）全景（南東から）

発掘現場体験ツアー

行く・見る・ちょっと掘るの考古学

―瀬戸内水軍城を掘る―

平成25年7月10日～7月11日に開催しました。

この行事は，日ごろ間近かに見ることが難しい発掘現場の見学や発掘体験をとおして，埋蔵文化財を身近に感じていただくことを目的に，豊田郡大崎上島町沖浦に所在する葛城跡の発掘調査現場で行いました。

葛城跡は瀬戸内海のど真ん中にあります

参加者は９名で，７月10日広島駅新幹線口をバス（貸切）で出発，安芸灘大橋・とびしま海道を経由し，まず，国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている呉市豊町御手洗の町並みを見学しました。江戸時代に海駅として繁栄し，西国大名の船宿や大坂の豪商鴻池家が寄進した住吉神社，幕末の七卿落ち遺跡など多くの文化遺産が残されています。

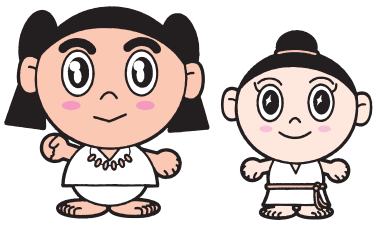
重伝建地区内の若胡子屋跡（県史跡）の展示を見学。

ここから，大崎上島に高速船で渡り，葛城跡で発掘体験を行いました。発掘調査は参加者全員が初めてで，しかも，７月末の猛暑という厳しい条件の中でしたが，参加者全員，最後まで作業を行いました。

７月11日は「海と島の歴史資料館」を見学しました。この資料館は，明治時代前期に建築されたもので，県内でも近代和風建築として最大級の規模をもち，戦前に内務大臣を務めた望月圭介の生家です。現在は資料館として活用されています。

港町情緒を残す木江の町並み

また，木江地区は明治時代以後の古い町並みが残されています。最近では山田洋次監督50周年記念作品“東京家族”のロケ地で，瀬戸内の原風景を今に伝え，見飽きることのない美しさがありました。参加者一同感動の思い出をもって，再びとびしま海道を経由して広島に帰りました。



出土品を見学する参加者の眼が輝いていました。

小皿を発見，これで一杯やりたいな。

発掘開始。お宝はどこだ。

全員集合　発掘体験の大きな想いでになりました。

作業を進める中で，土器の破片が出土し始め，作業の終了間際にほぼ完形の土師質土器の皿が出土しました。参加者全員が土器の説明を聞きました。

この発掘現場体験ツアーの参加者からは，本当に暑かったが，貴重な体験が出来てよかった，もう少し発掘時間が欲しい，もっと延長して体験出来ればよかった，チャンスがあれば，また参加したい，といった大変積極的な意見が多くありました。

体験ツアーは２日間で移動時間も長く，現場での発掘体験や文化財の見学に十分な時間が取れなかったということもありましたが，初めての企画としては大成功と思っています。特に暑い中で暑さに負ける人が一人もなく，参加者全員がツアー全行程を終えることができたことが一番の喜びと言えます。

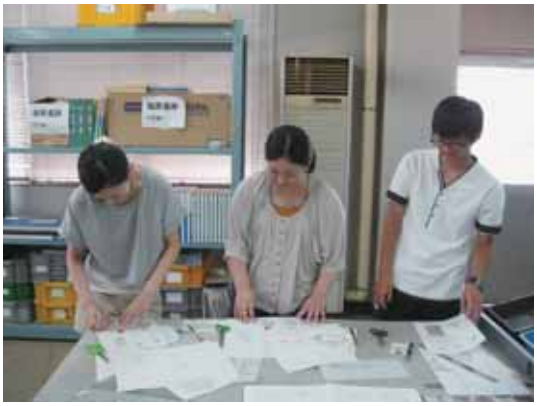
（桑原隆博）

◎大学生3名が博物館実習にチャレンジ

広島修道大学の博物館学講座の一環として，博物館学を履修する学生を一時的に受け入れ，資料取扱いの知識及び技能を習得していただくことを目的に実施しました。学生３名が８月７日（水）～８月９日（金）までの３日間，実習に取り組みました。

実習では土器や瓦の洗浄・注記，土器の実測，拓本とり，資料の展示，梱包・収納方法，写真撮影などについて，取り組みました。

参加者の感想文には，「本物の土器・瓦などに触れ，じっくり観察することで，ものの「見方」の練習になりました。」「たくさん実習を用意していただき，中身の濃い実習だったと思います。学校の授業だけでは感じることのできない貴重な体験をさせていただきました。」「注記や遺物のトレースを体験したことが印象に残っています。遺物の図面・図書の整理など正確に記録を伝えていこうという姿勢に感激しました。」などの感想が綴られており，貴重な実習になったようです。（向田裕始）



実習に取り組む大学生

◎南観音考古学教室　第１回「こねこね教室ー土器づくりー」を開催

遺跡の探訪や出土品を見ながらその技と心を学ぶことをとおして，広島の歴史や文化について理解を深めていただくことを目的に，広島市南観音公民館と共催で実施した新企画です。

平成25年7月21日（日），南観音公民館に参加した人は，定員を大幅に超える40名でした。幼児・小・中学生と保護者といった家族で参加されたが多く，なかには単独参加された大人の方もおられ，モノづくりに関心を寄せられていることに改めて感じました。

まず，土器のつくり方の説明を聞いた後，作業に入りました。最初は粘土を器の形にするのに手間取っておられましたが，この教室の終了時には，参加者自身が思いの形に造り，また，文様も描かれて個性ある作品が出来上がりました。

参加者からは「子どもが古代のことに興味を持つようになってくれそうです。他の人に教えたりしたい。継続していきたい。昔の文化を伝えていくのに活用したい。」などの感想がありました。

初めての企画でしたが，参加者の方に満足していただいたようです。作られた土器は，土器の乾燥を待って焼成する予定です。（桑原隆博）

土器づくり　親子で共同作業

広島県の古墳～円墳～

古墳は日本列島の北は岩手県から南は鹿児島県までの都府県で約16万基が確認されており，そのうち広島県では約1.1万基の古墳が確認されています。（全国第６位）

古墳の形は，前方後円墳，前方後方墳，円墳，方墳などがあり，最大の古墳は大仙（伝仁徳陵）古墳（大阪府・墳長486m）で，大型の古墳は前方後円墳が占めていますが，約5,200基と数は少なく，一方，円墳は全国の古墳の90％ともいわれていますが，規模で劣っています〔最大の円墳：丸墓山古墳（埼玉県・直径105m）〕。

広島県では，前方後円墳・前方後方墳・帆立貝形古墳が199基確認され，残りの大部分は円墳です。最大の前方後円墳は三ッ城古墳（東広島市・墳長92m），最大の円墳は浄楽寺第12号古墳（三次市・直径45.8m）ですが，三ッ城古墳の主（円）丘部（直径52m）と比べて差は大きくありません。円墳は数・規模から広島県の古墳の重要な位置を占めているといえます。

浄楽寺第12号古墳

広島県の円墳を規模（直径）から整理すると，40m台が３基，30m以上で40m未満が12基，20m以上で30m未満が173基，15m以上で20m未満が603基，あわせて791基，広島県の総古墳のわずか７％です。つまりほとんどの円墳は直径10m前後で，ピラミッド状に小形へと増加します。

この直径15m以上の円墳は広島県全域に分布するのではなく，23市町のうちの14市町に存在します。また，平成の市町村大合併前の86市町村でみると41市町村に存在します。最も多い旧三次市（合併前の市域）には262基（全体の約33.1％）存在する一方で直径15m未満の小形円墳しか存在しない市町もあり，市町により数・規模に差があります。

広島県における総古墳数と前方後円（方）墳・大型円（方）墳の地域別規模比較表

現市町名	古墳 総計	円墳（直径） 15m以上20m未満	20m以上30m未満	30m以上40m未満	40m以上50m未満	方墳（辺） 15m以上25m未満	前方後円墳 前方後方墳 帆立貝形古墳
広島市	416	15	18				10
大竹市	0						
廿日市市	16		1				
府中町	6						
海田町	11	1					
熊野町	0						
坂町	1						
呉市	31						
江田島市	2						
東広島市	708	26	6				8
安芸太田町	23	1				1	
北広島町	331	15	6	1			3
安芸高田市	1025	32	3			5	3
竹原市	46	1					
三原市	508	12	8	3	1	1	3
尾道市	161	6	1				2
大崎上島町	18						
世羅町	876	59	10				8
福山市	903	23	13				7
府中市	329	10	2				2
神石高原町	304	10	4				1
三次市	4003	301	79	6	2	6	101
庄原市	1513	91	22	2		2	51
計	11231	603	173	12	3	15	199

【参考文献】
総古墳数：広島県教育委員会調べ（平成18年度）
広島県教育委員会『広島県の文化財－広島県遺跡地図－』HP（平成24年1月確認）

古墳は，形態・規模等によるヤマト政権との関係（政治的身分）を表わし，規模は首長の実力を示すと考えられています。旧三次市には，最大の円墳，直径15m以上の円墳の３分の１が存在します。また，沼田川下流域にも大形の円墳が多くあります。このように地域の大形古墳が前方後円墳ではなく円墳が築造されている地域もあります。こうしたあり方は，中期にヤマト政権が政治的身分秩序の再編のなかで新たな勢力との関係を結び大型円墳・帆立貝形古墳の築造を認めるなど地方経営の変化を示していると考えられています。円墳の築造時期も含めて検討する必要がありますが，古墳の形態・規模により古墳時代における地域の政治的関係・勢力状況を窺うことができます。（桑原隆博）

（公財）広島県教育事業団埋蔵文化財調査室開設　10周年記念

10月開講!!

ひろしま考古学講座Ⅱ

―人々の交流と画期―を開催します。

日　時　期日は表のとおり，　各回とも 13 時 30 分～ 15 時 30 分

会　場　広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）中・大会議室

聴講無料

回	期　日	講　座　名	講　師
1	10月6日（日）	移動するもの留まるもの ―備北地域の旧石器から考える―	辻　満久（当教育事業団）
2	10月27日（日）	墳墓からみた交流 ―四隅突出型墓を中心に―	桑原隆博（当教育事業団）
3	11月24日（日）	弥生時代の交流 ―吉備を中心に―	石田爲成（岡山県教育委員会）
4	12月1日（日）	西部瀬戸内の縄文文化 ―海を介した縄文人の交流―	小南裕一（山口県埋蔵文化財センター）
5	12月8日（日）	陶磁器からみた交流 ―廿日市町屋跡の調査から―	沢元保夫（当教育事業団）
6	12月22日（日）	瀬戸内海と日本海の漁撈民 ―東アジアの地中海―	内田律雄（島根県埋蔵文化財調査センター）

平成25年度 ひろしまの遺跡を語る

テーマ：城館研究最前線

日　時　平成26年1月11日(土)10時～16時20分

会　場　広島県民文化センター　多目的ホール(広島市中区大手町1-5-3)

内　容　基調講演,当事業団が近年発掘調査した城館跡の事例報告,シンポジウムを行います。
基調講演は中井均氏(滋賀県立大学教授),小都隆氏(広島県文化財保護審議会委員)です。

埋蔵文化財発掘調査報告会Ⅶを開催します

テーマ：中国山地の旧石器・縄文の文化を掘る

日　時：平成 26 年 3 月 1 日（土）
13 時～ 15 時 20 分

会　場：広島県立歴史民俗資料館研修室
（三次市小田幸町 122）

聴講無料

（公財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報
ひろしまの遺跡　第110号

発行日　平成25（2013）年9月30日
編　集　（公財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036　広島市西区観音新町四丁目8番49号
TEL（082）295-5751
ホームページ　http://www.harc.or.jp
E-mail　maibun@harc.or.jp
発　行　（公財）広島県教育事業団
印　刷　㈱エル・コ